

平成26年度 学校評価

[各校の重点取組について]

学力向上を図る方法として、明城漢字ドリルの活用と漢字検定の実施。思いやりの心を育成する方法として、道徳教育の充実を行った。また、清掃活動や学校行事の体験等を全学年からの「たてわり班編制」により実施する。

学校教育に関する重点取組

1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力を身につけさせる	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	(1) 授業改善の取組を促進するとともに家庭との連携により、学力向上を推進する (2) 特別支援教育充実の取組を促進し、自立や社会参加に向けた主体性を育成する (3) 校種間連携の取組を促進し、滑らかな成長を推進する	2.8
取組とその成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> ●学力向上の推進 ・全教員が年1回以上指導案を作成し、授業公開。指導力の向上に繋がっている。 ・兵庫型教科担任制による少人数授業を行うことで、基礎学力の定着につながっている。 ・夏季休業中にサマースクール10講座を実施することで、地域や保護者との連携にもつながった。 ・独自の明城漢字ドリルの活用により「漢字」に対する意欲は高い。 ・毎週明城漢字検定テストの実施を行うことで、意欲的に取り組めた。 ・毎日8:30～8:40に朝の学習タイムを設定することで、授業に落ち着いて取り組む事ができた。 ・道徳教育を推進することで、落ち着いた環境を設定することができた。 ●特別支援教育の推進 ・心の教育特別支援員による個に応じた支援を行うことで、個を活かすことができた。 ・特別教育推進委員会の定期的な開催を行うことで、学校全体の実態を的確に把握し指導に活かされた。 ●校種間の連携 ・小中連携の研修会を行うことで、交流ができた。 ・幼保小交流を計画・実践することで、お互いの児童・園児の実態を知ることができた。 ・小高連携の事業を計画し、実践することで、専門的な講座を受けることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●学力向上の推進 ・明漢ドリル、明城漢字検定テスト等については学級担任の指導力向上に活かす取り組みも考えていく。 ・個々の力を伸ばすため、トークタイムの設定について検討していく。 ●特別支援教育 心の支援教育推進の先生と共に、個別の支援計画を充実させる。 ●校種間の連携 ・交流はできているが、学習連携とまではなかなかできていない。 	

2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	(1) 道徳性育成の取組を促進し、良好な人間関係及び社会とのかかわりづくりに努める (2) 基本的な生活習慣確立の取組を促進し、問題行動の未然防止を図る (3) 相談体制充実の取組を促進し、不適応行動への早期対応及び長期欠席の改善を図る (4) 進路指導充実の取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成する	2.7
取組とその成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> ・「道徳」を研究の教科とすることで、人権意識や道徳心の向上を図り、豊かな人間性を育む手立てが学べた。 ・兵庫県版道徳教育副読本の活用を行い授業構成を学んだ。 ・縦割り清掃やなかよしラリーなど異年齢集団での活動を行うことで、高学年は思いやりの心や責任感を育み、低学年は集団のきまりを学びながら人権意識の高揚を図った。 ・1年から6年までの縦割り活動を行うことで、互いを思いやり、よりよい人間関係を構築した。 ・生徒指導部会を定期的開催することで、問題解決を組織で解決する体制を作った。 	<ul style="list-style-type: none"> ●基本的な生活習慣・情報モラル ・学校のルールや重点目標等について、生徒指導部を中心に再検討し、共通理解を深め、徹底していく。 ・携帯電話、スマホ等の使用について、危険性やマナーについて、学習すると同時に保護者向けに講演会等を行うなどの啓発活動が有効だったので、次年度も継続する。 	

3 食育や体育を充実させ、健康な体づくりに取り組む (1) 食育を通して生活改善の取組を促進し、望ましい生活習慣を育成する (2) 体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る	評価 I (教職員)	評価 II (校園長)
	3.4	4
取組とその成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> ポスターや放送、学級指導等で手洗い、うがい、早寝、早起き、朝ごはん等の基本的な生活習慣を徹底させることで、望ましい生活習慣の確立をねらった。 保健だよりを発行したり、発育測定時にビデオや人形等を利用して学習をしたりして、生活習慣や健康についての理解を深め、啓発を行った。 保護者による給食試食会や給食参観を行うことで、学校教育の理解を深めた。 1年を通じて全校でなわとびに取り組むことは、系統的に体力作りと持久力を育成することができる。 体育大会や体力アップ大作戦(持久走・なわとび・マラソン大会)を実施することは、体力の向上につながった。 	<ul style="list-style-type: none"> 来年度も引き続き、基本的な生活習慣の定着に向けての学習を充実させていく。 体育の学習について、カリキュラムを見直し、年間計画を再検討する。 	

4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る (1) 安全教育の取組を促進し、登下校及び校内の安全確保を図る (2) 防災教育充実の取組を促進し、危機管理能力の向上を図る	評価 I (教職員)	評価 II (校園長)
	3	3
取組とその成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> ●登下校と校内の安全 登下校時における地域のボランティアの協力や職員の立ち当番の実施をすることで、児童の安全を守ることができた。 集団登校の実施を行うことで、児童の安全を守り遅刻や欠席者の増加を防ぐことができた。 各教室に安全ホイッスルの設置と教職員も身につけることで、児童の安全を守るという意識が高まった。 避難訓練を年3回行うことで、職員と児童の防災に対する意識を高め、対処法を徹底することができた。 不審者対応訓練を実施することで、職員の不審者対応についての意識を高め、対処法を徹底することができた。 災害対応マニュアル、不審者対応マニュアルを作成しパソコンに保存することで、緊急時の職員の対応について知りたい時に確認ができ、共通理解を図ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●児童の学校での生活について、教職員で再度、共通認識を持ち、徹底して安全対策に取り組む。 ●不審者対応訓練は、毎年パターンをかえて実施すること。 	

5 家庭・地域・学校の連携を深め、信頼され、活気に満ちた学校園づくりに取り組む (1) 教職員の資質向上の取組を促進し、学校の組織力向上を図る (2) 地域資源活用の取組を促進し、開かれた学校園づくりを図る (3) 学校評価活用の取組を促進し、学校運営の改善と発展を図る	評価 I (教職員)	評価 II (校園長)
	2.8	3
取組とその成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> ●地域とのつながり・開かれた学校園づくり 地域に出での活動(明城遺産等)や授業参観、オープンスクール、児童会活動(なかよしラリー・明城まつり・交通安全感謝の会)等を実施することで、地域との交流を進め、地域の方が学校に足を運びやすい環境を整えている。 明城漢字ドリルや環境体験活動実施により、地域を知り、地域で学び、地域に誇りを持つ児童を育てている。 ●教職員の自己研鑽 多種多様なサマースクールを実施することで、児童の関心意欲を高め様々な能力の向上に努めると共に、教師の資質向上を図った。 校内外の各種研修・研究会に積極的に参加することで、自己研鑽に努めることができた。 一人一授業を実施することで、指導力向上を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域学習の中で、「モニトライやる」を行っていたが授業時数や安全面から今年では実施しなかったが、福祉教育を充実させた。 	

教育目標		評価 I (教職員)	評価 II (校園長)
		(1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 教育目標の具現化と指導の充実	2.8
取組とその成果	課題と改善策		
<ul style="list-style-type: none"> ・三つの『あ』…「あいさつ・あつまり・あとしまつ」ができるようポスターや放送で呼びかけ、学級指導、全体指導を行った。 ・児童理解研修等を実施することで、全教職員で子どもの内面理解に努めると共に、良好な人間関係づくりに取り組んだ。 ・体育の授業の充実や休み時間での外遊びを奨励することで、健康増進と体力向上を図・児童の学校での生活について、教職員で再度、共通認識を持ち、徹底して安全対策に取り組む。 ・不審者対応訓練では、さらに一歩進めて、警察等の外部組織とも連携を進め、日頃の安全対策を怠らないようにすると共に緊急時に対応できるように取り組んだ。 ・行事や地域と関わる学習の実施をすることで、保護者や地域に信頼され魅力ある学校づくりに取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校門でのあいさつ運動やポスターの掲示、教職員からの積極的な声かけ等を行うことで、「あいさつ」と「あとしまつ」の徹底を図る。 		

研究テーマ		評価 I (教職員)	評価 II (校園長)
		(1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 研究テーマの具現化と指導の充実	2.9
取組とその成果	課題と改善策		
<ul style="list-style-type: none"> ・「道徳」を研究教科とすることで、道徳の時間をはじめ、道徳教育を充実させた。 ・研究推進委員会と研究全体会を実施し、職員の共通理解を図り、全校一致で系統立てた学習活動を展開した。 ・研究授業を行い講師からの指導助言により研究テーマの具現化を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・講師を招聘し、道徳教育について研修を深める。 ・兵庫県版副読本、こころのノート等を活用した授業や他の教材についてもさらに教材開発と活用を進めていく。 		

		評価 I (教職員)	評価 II (校園長)
取組とその成果	課題と改善策		